

DX 政策推進で体制強化 健康経営優良法人認定



▲広田甫社長

関西一円を営業範囲とする有力業務用卸。外食ルートに強みを持ち、WEB受注システムなどどこよりも早く正確に食材を届ける仕組みを先駆けて構築して得意先からの信頼を積み重ね、20年3月期は年商約74億円と拡大してきたが、コロナ禍で状況は一変し、売上は3割減となった。それでも、DX（デジタルトランスフォーメーション）政策を強化推進。21年6月下旬から受注システ

ムを完全自動化し、今後の変化に備えている。

同社が会社の成長と共に取り組んできた重要事項が「社員の健康」。SDGsの17の目標の一つである「すべての人に健康と福祉を」にもある。20年以上前から取り組んでいるのが、早朝出勤時に提供するパンなどの簡易朝食。特に若い従業員が朝食抜きで業務に入ることを心配して始めた。

最近では、昨年からは毎日午後3時にラジオ体操を実施し、21年8月からは1ヵ所だけ倉庫にあった喫煙場所を閉鎖し、敷地内完全禁煙とした。こういった取り組みが評価され、経済産業省の「健康経営優良法人」に、前年に続き2021年も「従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人」として認定されている。直近では本社隣接の土地を購入し、今秋からその一部を独身寮とし、福祉面のさらなる充実も図っている。

今後も「食の楽しみを多くの方々にお届けする」をモットーに、引き続き「人間力」「情報力」「機能力」「組織力」「発信力」の向上を図り、業界の発展に貢献していく。

発酵食品の素晴らしさを伝承 健康ブーム追い風に商機拡大



▲里村大像社長

漬物の素や米こうじ製品を手掛ける厚生産業（岐阜県揖斐郡）は1959年創業。前身である薬局時代、地域生活者に提供していた自家製漬物の素が評判を呼んで店頭売りを開始。それがやがて農協（現JA）との取引につながり、さらに一般小売店や業務用市場へと業容を拡大してきた。

塩こうじ、甘酒、ぬか漬の素など、健康志向や美容意識の高まりを背景に巻き起こった数々の

健康食ブーム。同社においても、これら製品の売上げが高伸。昨年来続くぬか漬の素ブームを受け、主力製品の「熟成ぬか床」も大きく数字を伸ばした。ECでの販売も好調で、「お米と米麹でつくったあまざけ」や「冷蔵庫で育てる熟成ぬか床」は大手通販サイトで1位を獲得。ファンの裾野を一気に広げた。

「当社の使命は『発酵食品の素晴らしさ』と『手作り食品の正しさ』を伝えていくこと。むやみに手を広げるのではなく、使命を実現するために、麹の有用性が発揮できる分野に資源を集中する。こういうニッチな分野では、売上げやシェアよりも常にフロントランナーであり続けることが大事」と同社・里村大像社長は語る。

「私が経営者として取り組んできた一番のポイントは経営理念を明確に打ち出すこと。社は、企業使命、経営姿勢、行動指針の4つを徹底してきたからこそ、今の当社がある。社員一人一人に対しても使命達成のために何をすべきか、自身の成長を促せるよう方向性を示していきたい」